

消費者動向調査 No.125

テーマ「ボーナスに関する調査」

- ◆ 調査時期 2019年11月
- ◆ 調査対象 福岡県内のボーナスがある家庭の500人
(うち男性245人、女性255人)

- ◆ 回答者区分

A.年代

	%
20代	14.6
30代	25.4
40代	20.0
50代	21.8
60代	18.2

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	72.6
妻だけ	8.6
両方	18.8

※当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。

西日本シティ銀行
NCBリサーチ&コンサルティング

[調査結果本文]

内閣府は11月の月例経済報告で、「景気は、輸出を中心に弱さが長引いているものの、緩やかに回復している。」と発表しています。先行きについては、「当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題を巡る緊張、中国経済の先行き、英国のEU離脱の行方等の海外経済の動向や金融資本市場の変動の影響に加え、消費税率引上げ後の消費者マインドの動向に留意する必要がある。」としています。

このような中、消費者はこの冬のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、冬のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の家庭を対象に冬のボーナスについての消費動向をたずねました。

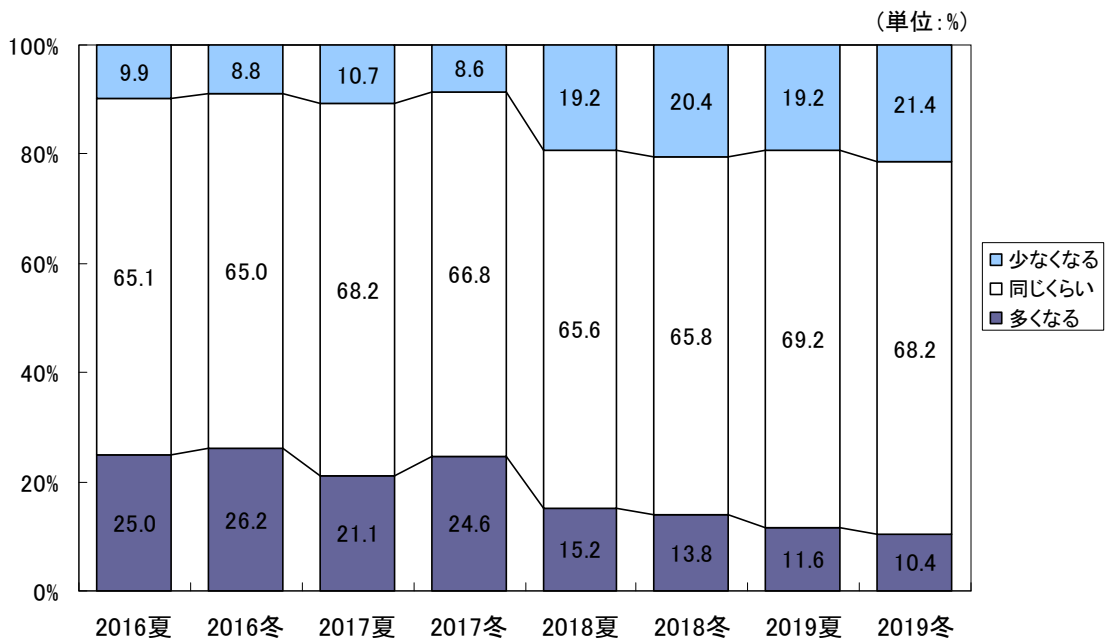
なお、女性の就業率や共働き世帯の増加を背景として、2018年夏の調査より調査対象者を男性・女性（従来は女性のみ）としたほか、調査方法をインターネットによるアンケート（従来は文書）回答方式に変更しています。

そのため、従来に比べデータが大きく変動している設問がありますが、調査方法の変更に伴う補正は行わず、単純な比較を実施しています。

◆ 今年の冬のボーナス、昨年より「多くなる」は10.4%。

冬のボーナスが昨年より「多くなる」と予測する割合は10.4%となった。「少なくなる」は21.4%、「同じくらい」は68.2%であった。

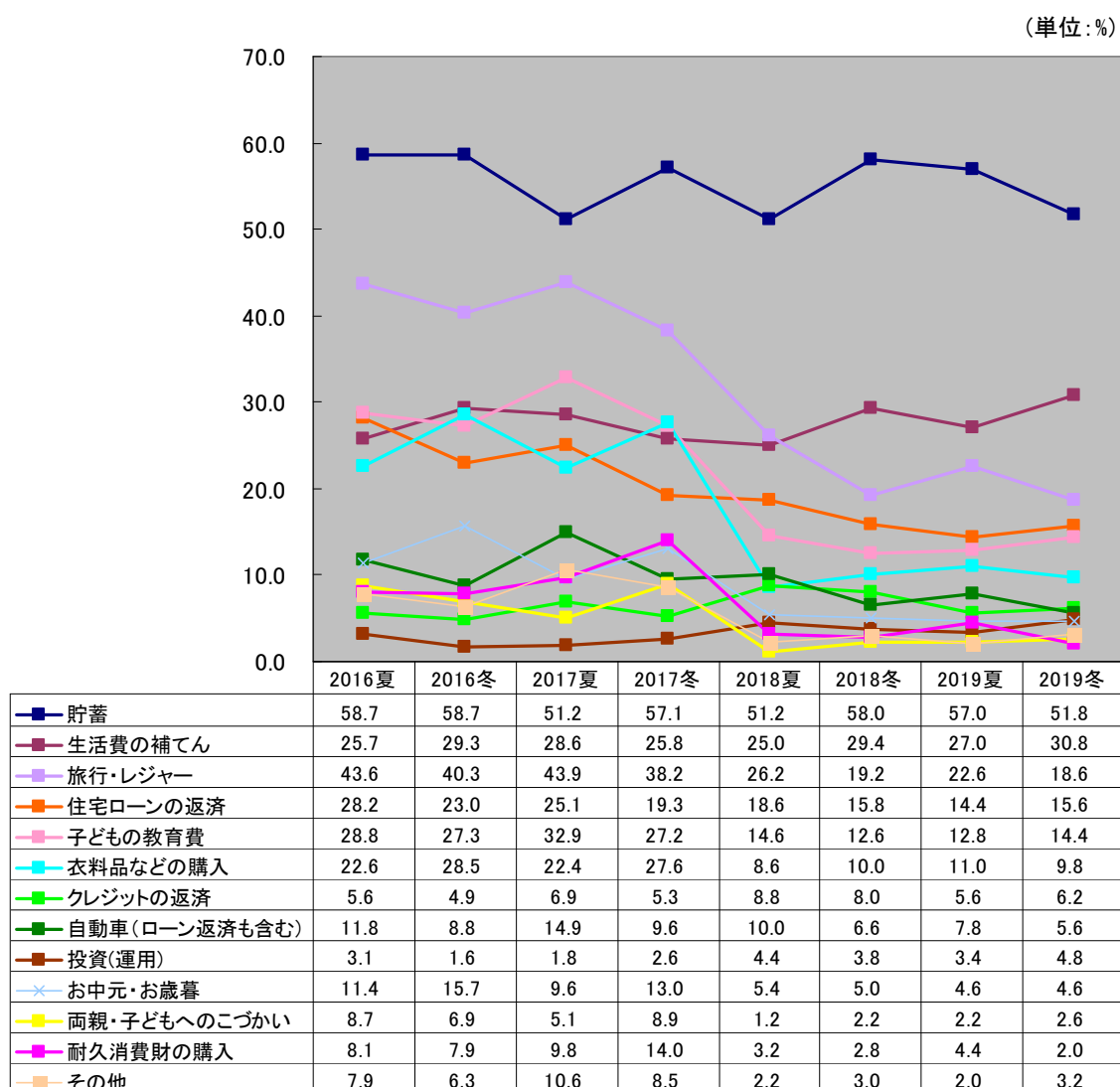
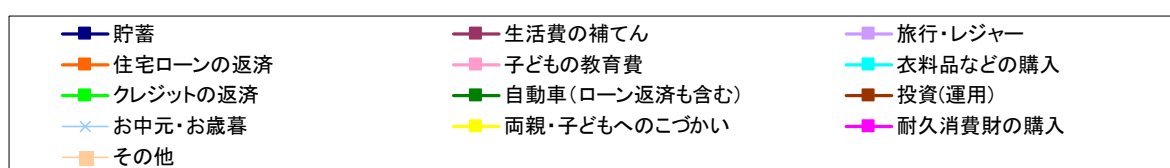
[グラフ1：今回の冬のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか]



◆冬のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で51.8%。2位は「生活費の補てん」で30.8%。

冬のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で51.8%。2位は「生活費の補てん」で30.8%。3位は「旅行・レジャー」で18.6%となった。

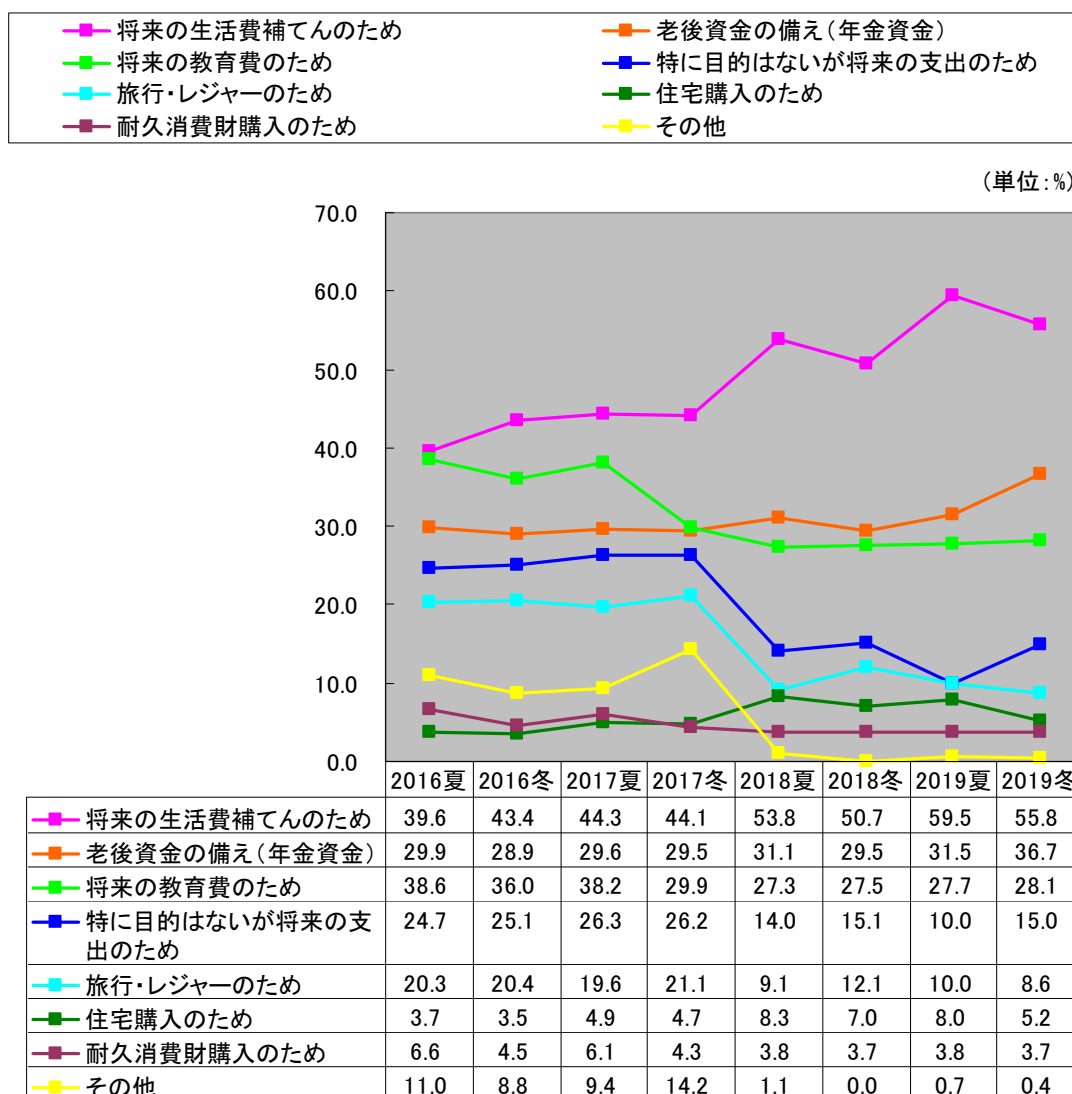
[グラフ2：今回の冬のボーナスは何に使う予定ですか（3つまで）]



◆ボーナスを貯蓄・運用する目的、1位は「将来の生活費補てんのため」で55.8%。2位は「老後資金の備え」で36.7%。

冬のボーナスを貯蓄する目的の1位は、「将来の生活費補てんのため」で55.8%。2位は「老後資金の備え」で36.7%。3位は「将来の教育費のため」で28.1%であった。

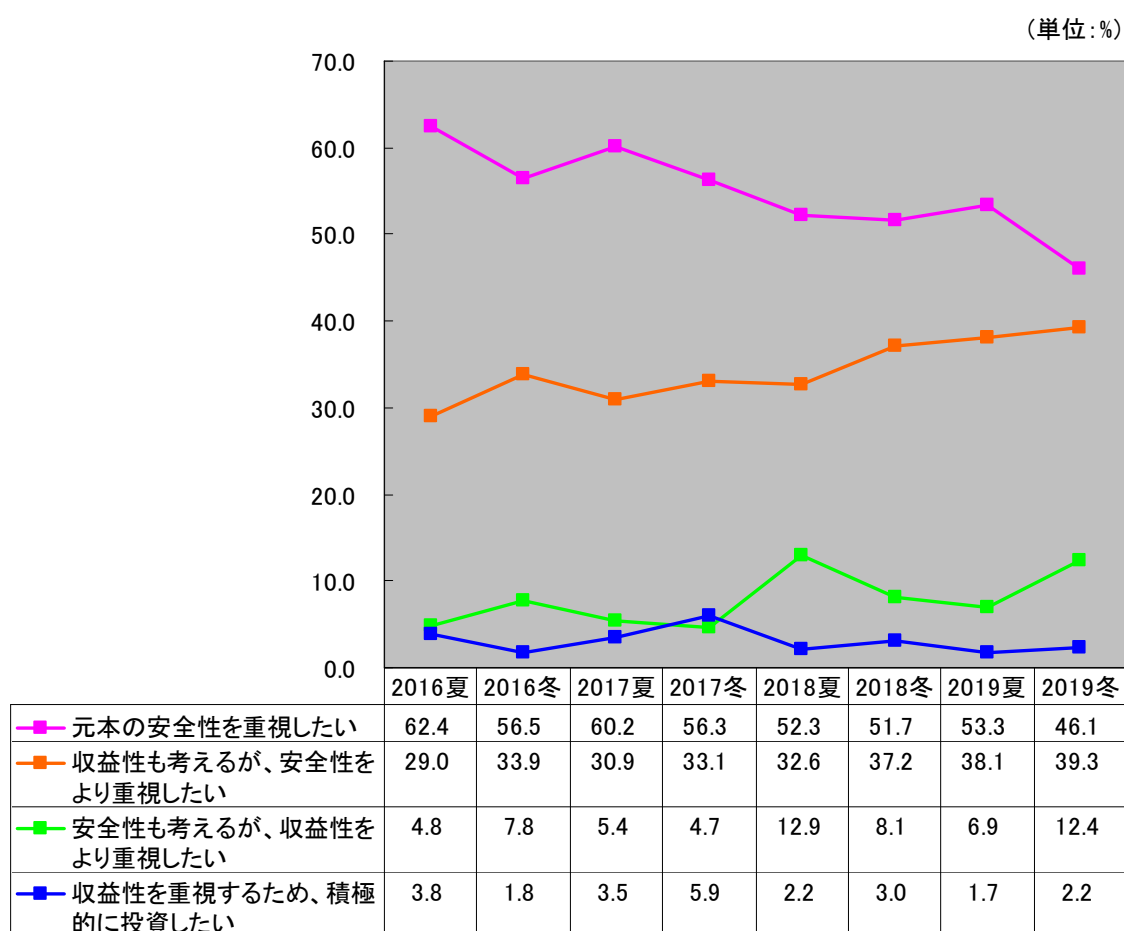
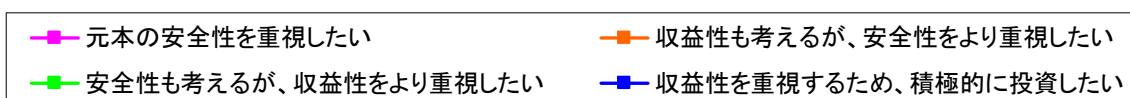
[グラフ3：将来の何のために冬のボーナスを貯蓄・運用しますか（2つまで）]



◆冬のボーナスを貯蓄・運用する場合の考えは、「元本の安全性を重視したい」が1位で、46.1%。

「元本の安全性を重視したい」が46.1%で、19期連続の1位。「収益性も考えるが安全性をより重視したい」が39.3%。

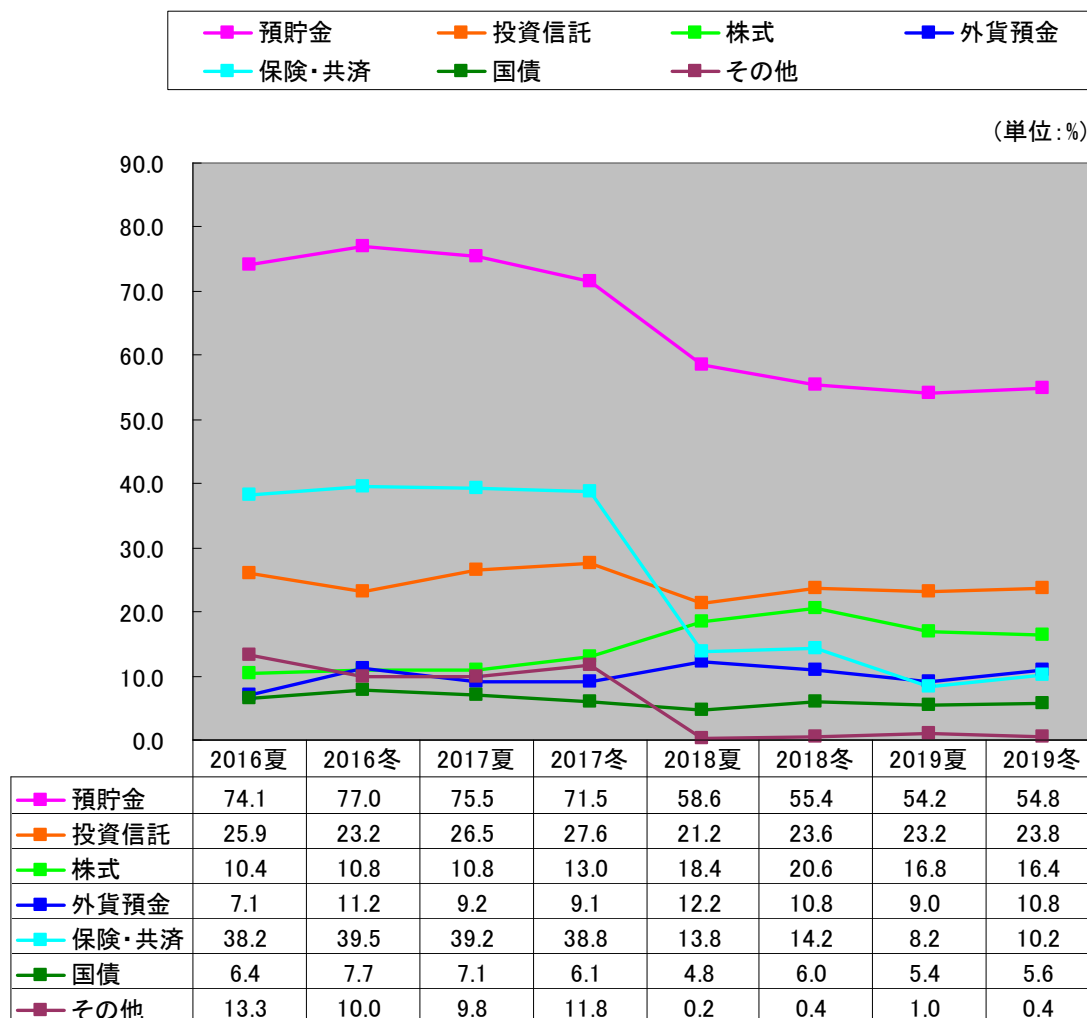
[グラフ4：冬のボーナスを貯蓄・運用する場合、あなたの考えに近いのは]



◆関心がある金融商品、1位は「預貯金」で54.8%

現在関心がある金融商品は「預貯金」が54.8%で1位。2位は「投資信託」で23.8%。3位は「株式」で16.4%であった。

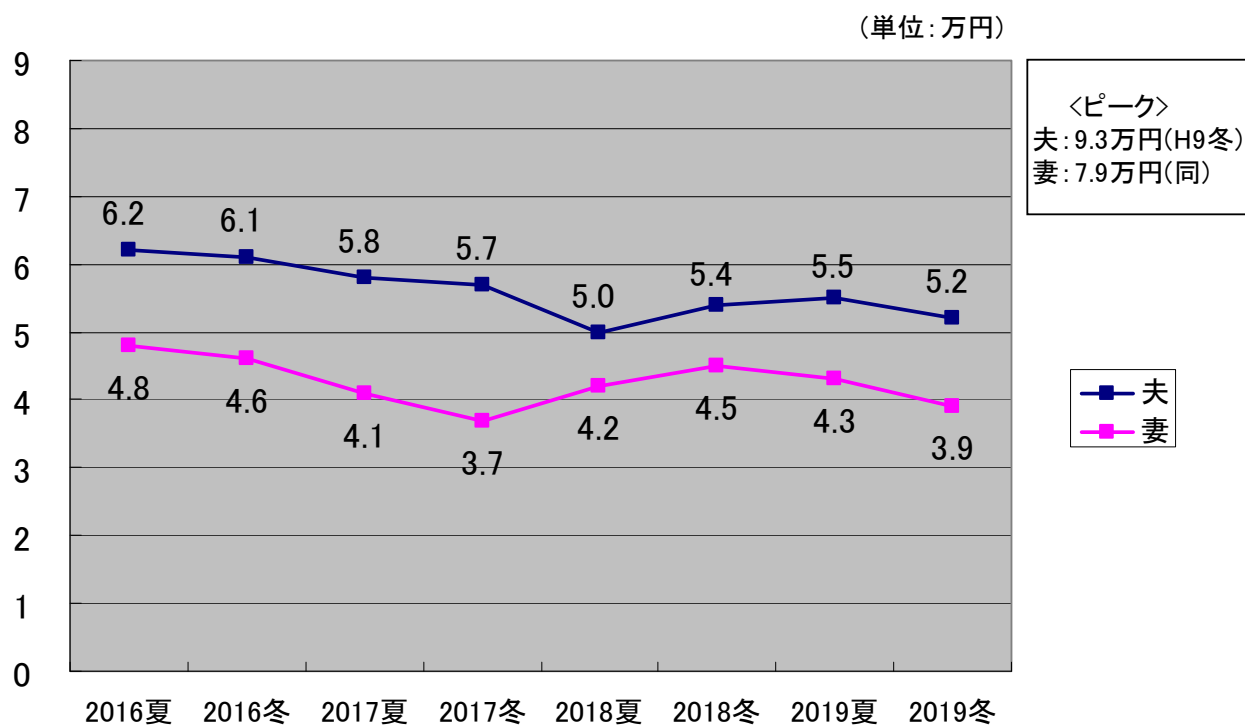
[グラフ5：どのような金融商品に関心がありますか（いくつでも）]



◆冬のボーナス、夫が自由に使える金額は平均 5.2 万円。妻が自由に使える金額は平均 3.9 万円。

冬のボーナス、夫が自由に使える金額は平均 5.2 万円。妻が自由に使える金額は平均 3.9 万円。

[グラフ6：冬のボーナス、自由に使える金額はどれくらいですか]



この調査に関するお問い合わせ先

西日本シティ銀行	広報文化部	長谷川	TEL 092-461-1869
NCB リサーチ&コンサルティング	調査部	原	TEL 092-476-3051